

ambivalent

KKUNST ARZT では、初となる
上田なごみの個展を開催します。
上田なごみは、脆さと美しさを内包する
白昼夢のような絵画を描くアーティストです。
可憐な白いドレスの少女たちが輪になり、
仲間とそれ以外の線引きを暗示させるような、
横幅 4m 近くの大作「かごめかごめ (2024)」、
中絶の是非を考察する「regain (2024)」、
女性性、宗教、倫理・・・
絵画はアーティストの思考をうつしだしています。
(KUNST ARZT 岡本光博)



かごめかごめ

2024. 制作

キャンバスに油彩

W3880×H2590mm

集団の持つ同調圧力がある。そのとき個人の心はどうなるのだろうか。
いじめを体験したことをきっかけに、集団の中で過ごすことの安心感と
不安感について考えた作品である。集団の中に溶け込もうとしながらも
溶け込めない私がいる。そのアイデンティティの揺らぎを
かごめかごめに内包される輪の力をかりて、イメージを描いた。

略歴

2001 滋賀県大津市生まれ

2024 京都市立芸術大学 美術学部 美術科油画専攻 卒業

2025 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程 美術専攻（油画）在籍中

展覧会

2023 IZUMI studio オープンアトリエ（イズミスタジオ / 京都）

2024 Kyoto Art for Tomorrow 2025- 京都府新鋭選抜展 -（京都文化博物館）関西日仏学節賞受賞

2025 京都市立芸術大学 作品展 2024

2025 年 5 月 6 日（火）から 11 日（日）

12:00 から 18:00

会 場：KUNST ARZT

605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

ambivalent

アーティスト・ステートメント

私は、日常の中で生じる相反する存在や、それに伴う感情をテーマに制作している。平穏な日常に忍び込む恐怖と緊張、集団の中で感じる安堵と孤独、完璧を求める欲望と、どうしようもない現実の狭間に生じる淡い期待と絶望。それらはまるで、光に落ちる影のように、決して切り離せないものである。私は、このアンビバレントな感情が交錯する世界を描くことで、自分自身の心の狭間を見つめようとしている。それは同時に、人間にとって普遍的な問いとして、描き続けるものでもある。



Eden
2025
キャンバスに油彩、クレヨン
W1940×H1620mm
キリスト教の聖書に登場するイヴとマリアをモチーフに、対極の統合をテーマとして描いたシリーズ。イヴの原罪的な負のアイコンと、穢れなき奇跡の存在として謳われ敬われたマリアの対比的な要素を、画面の中で統合することを試みた。



period
2025
キャンバスに油彩、クレヨン
W1455×H1120mm
イヴとマリアシリーズ。エデンにいたマリアが、イヴの齧ったりんごを食したことで、月経を体験するという二次創作を行った作品。画面内では、月を月経の象徴として扱っている。



regain
2024
キャンバスに油彩、クレヨン
W1620×H970mm
中絶は赤児の命を絶ってしまうことが倫理的問題として掲げられている。しかし同時に、望まない妊娠に人生を左右される女性の救済と人権がそこにはある。この作品では中絶のもつネガティブとポジティブの両側面に目を向け、イメージを描いた。



invisible3
2024
ポリ袋にメディウム転写
W1000×H1200mm (可変サイズ)